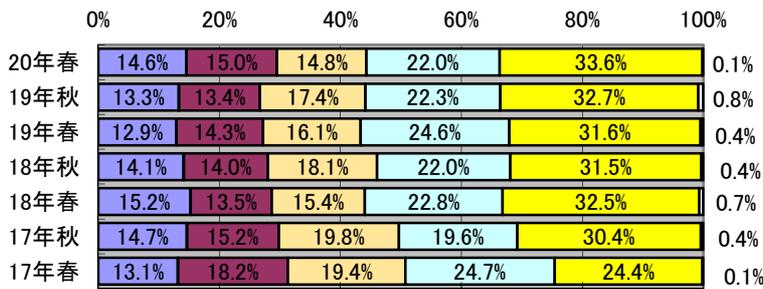


2020年春 消費者の暮らし向きに関するアンケート 調査結果（サマリー）

調査名	2020年春の「消費者の暮らし向きに関するアンケート」調査
調査時期	2020年3月
調査対象	県民生協組合員約16万人の中から2,500人を無作為抽出(福井県の年齢・市町別構成比で)
調査者	公益社団法人 ふくい・暮らしの研究所
調査内容	消費者の暮らし向き、旅行、貯蓄、ボーナス、お中元・お歳暮、暮らし・食・環境・福祉等の意識調査 福井県の消費者の消費動向(消費者マインド)を把握するために半年に1回定期的に行っている調査で、今回で29回目となる
回答状況	配布数2,500枚、有効回答数900枚、回答率36%

年齢構成と平均年齢

回答者平均年齢は54.5歳でした。



20年春	54.5
19年秋	54.8
19年春	54.8
18年秋	54.3
18年春	54.4
17年秋	53.6
17年春	52.9

平均年齢(歳)
 ……35歳未満: 30
 ……35歳～44歳未満: 40
 ……45歳～54歳未満: 50
 ……55歳～64歳未満: 60
 ……65歳以上: 70
 として平均値を算出

■35歳未満 ■35歳～44歳未満 □45歳～54歳未満 □55歳～64歳未満 □65歳以上 □無回答

消費者マインドは、増税直後の後退からわずかに回復（図表1～3）

公益社団法人ふくい・暮らしの研究所の標記アンケート(2020年3月実施、有効回答数900)によると、今後半年間の「暮らし向き」について、D.I.値が前回より約2.8ポイント上がり▲26.5となりました。他の項目についても、「収入」はやや悲観的ですが、「支出」「貯蓄」においてはマイナス方向の値が微減しています。ただし、今回(2020年3月)のアンケートにおいては新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮しなければなりません。回答された時期は3月初めから4月半ばと最大で1ヵ月半の開きがあり、ご存知のとおりその間の世界や日本、福井県内の感染拡大状況や社会不安、経済情勢の変化は著しく、回答時期により消費者のマインドの差が大きいことが想像できます。したがって、全体を平均した数値では、実態にマッチした結果になっていないと言わざるを得ません。

図表1 今後半年間の暮らし向き、収入、支出、貯蓄(比率) ※全国比率は、内閣府公示の20年3月「消費動向調査」より

	暮らし向き			収入			支出		貯蓄	
	19年秋	20年春	全国	19年秋	20年春	全国	19年秋	20年春	19年秋	20年春
良くなる(増える)	0.6%	1.1%	0.4%	0.7%	1.2%	0.4%	6.1%	6.0%	0.1%	0.6%
やや良くなる(やや増える)	2.7%	3.4%	2.2%	3.5%	5.0%	3.4%	22.7%	22.1%	4.1%	5.7%
変わらない	63.3%	63.4%	35.9%	63.8%	60.1%	49.5%	43.3%	47.2%	43.6%	42.2%
やや悪くなる(やや減る)	26.3%	24.6%	40.7%	22.5%	23.2%	29.2%	19.8%	18.7%	32.0%	31.4%
悪くなる(減る)	6.0%	6.2%	20.7%	8.7%	9.6%	17.4%	6.9%	4.7%	19.6%	18.9%
無回答	1.2%	1.2%		0.7%	0.9%		1.1%	1.3%	0.6%	1.2%
D. I. 値	▲ 29.3	▲ 26.5	▲ 58.9	▲ 27.2	▲ 26.8	▲ 42.8	2.1	4.8	▲ 47.6	▲ 44.7

図表2 今後半年間の暮らし向き、収入、支出、貯蓄のD. I. 値経年

